

平成 21 年 2 月 6 日

『ジェットfoil二便体制』

何故臨時議会で否決後 再度可決されたのか

ジェットfoilは、一便より二便が良いのは誰が考えても当然の事であります。だがそれだけを条件に比田勝～厳原間航路を完全打切りと言うのでは、対馬全体の利益にはならないのも当然の事であります。では何故、否決したのか市民には理解しがたいと思いますので以下、私の観念で説明致します。何故否決か、それを端的に言うならば市長部局の議会に対する説明不足の一言につきます。今日まで、ジェットfoil問題は、対馬の重要な交通機関であり、議会に於いても、全員協議会（議員全員参加して市長部局と協議し意見疎通を図る会議）で協議して来た課題でもあります。事前説明もない中、十九日の十時開会の臨時議会直前に、市長より全員協議会の要請があり、全員協議会が開会されました。案件はなんと本日上程予定のジェットfoil問題についてであります。肝心の運行する九州郵船側出席説明もない中、市側に沢山の意見が出され、意見の集約を見ることなく、本議会を開会、十対十四の大差で否決、当然の結果と言えます。この問題は、再度申し上げますが、全員協議会で何度も協議をして来た経緯があります。多少の意見の相違はあろうが、議案提出日、当日の全員協議会は常識的に考えられない。議会なんかどうでもなるもの思いでありましょうが、常識を逸脱してはならない。事前に協議すれば意見調整も出来、民意が反映されるはず。当日とは余りにも議会を軽視しているとしか思えない。市長が多忙なら補佐官、副市长等三人もいる。町議と違い市議会は、会派制であり、各会派に事前説明ぐらいは出来る筈。机上で鉛筆を舐めるだけが仕事ではあるまい。否決の要因は、事前協議無しにつきる。二十九日二回目の臨時議会、賛成多数で可決、何故可決か、何故なら、前日に全員協議会を開き、九州郵船社長始め五人の役員の方々のご出席を頂き、補助金、経営状況、油値段安定時の比田勝航路の再開等、これに対する市側の考え方、移設予定の浮桟橋後の、運行再開に於ける対策、二十二年度比田勝港に完成するジェットfoil専用岸壁の活用方法等を質し、それにより多数の議員の理解を得られたのであり、その事が可決となったのであると私は理解しています。

四番議員 小宮教義